

【原著論文】

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

### —歌唱共通教材のピアノ伴奏編曲の試み—

中島 龍一

日本体育大学芸術学群音楽研究室

## Devising musical expression in teaching methods for elementary music

### —An attempt at shared teaching materials for singing and arrangements for piano accompaniment—

Ryuichi NAKAJIMA

**Abstract:** In March 2017, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) of Japan announced the new-generation designated courses of study, following partial amendment of the enforcement regulations to the School Education Act. The designated courses of study are prepared by MEXT pursuant to the School Education Act to establish standards for curriculum development at every school, in order to ensure that students in any region of the country can receive a uniform level of education. They establish objectives and general educational content for each subject at each of the levels of elementary, junior-high, and high school. The new designated course of study for elementary school released this year will be implemented beginning in April 2020.

The designated course of study for each subject in elementary school consists of overall objectives as well as objectives and content for each school grade. Its overall objective for music incorporates more detailed content than the current course of study. Its objectives and content for individual grades also are specified in more practical terms, while still observing the three pillars of expression, appreciation, and common matters. This paper summarizes the revisions to the designated course of study for elementary-school music, focusing on “devising musical expression,” which is identified under Item 2 of the new designated course of study.

The designated course of study establishes common teaching materials on singing. Four works are specified for each grade—for a total of 24 works over six years. These are considered extremely important works in elementary music education in Japan in light of Japanese traditional culture and classical song forms, their musical structures, and the Japanese historical background that can be identified from their lyrics.

Focusing on piano accompaniment in the common teaching materials for singing, the authors use the expressive method of arrangement for piano to attempt to devise means of musical expression. With regard to arrangement, they focus on the important point of making works easier to play without losing the sound of the originals. They do so because this makes it possible even for instructors who have little experience performing on the piano to play songs on the instrument and sing along with pupils while also observing them. They then compare and contrast the original sheet music with that of the arrangements and discuss one teaching method for elementary music.

(Received: May 8, 2017 Accepted: August 13, 2017)

**Key words:** teaching methods for elementary music, musical expression, piano accompaniment, arrangement

**キーワード:** 初等音楽科教育法, 音楽表現, ピアノ伴奏, 編曲

## 1. はじめに

平成 29 年 3 月, 学校教育法施行規則の一部改正に伴い, 新学習指導要領が文部科学省より公示された。学習指導要領とは, 全国のどの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするために, 文部科学省に

より、学校教育法等に基づいて、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めているものである。また小学校、中学校、高等学校等ごとにそれぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めている。今回公示された小学校の新学習指導要領は、平成32年4月より施行される。

小学校における各教科の学習指導要領は、目標と各学年の目標及び内容から構成されている。「音楽科」の目標では、現行よりも詳細な内容が盛り込まれた。また各学年の目標及び内容に関しても、表現・鑑賞・共通事項の3本柱を踏襲しつつ、更に深く具体的に示された。本論文では、小学校学習指導要領「音楽科」における目標の改訂点をまとめ、新学習指導要領目標の第2項目に示された文言である、「音楽表現を工夫すること」に着目した。

学習指導要領には、歌唱共通教材が定められている。各学年4曲ずつ指定されており、6学年で計24曲となる。これらは日本の伝統文化や古典の歌唱様式、音楽の構成面、歌詞から読み取ることができる日本の歴史的背景等、日本における初等音楽科教育において非常に重要な作品だと考える。

筆者は歌唱共通教材のピアノ伴奏に焦点を当て、編曲というピアノ表現技法を用いて「音楽表現の工夫」を試みた。従来のピアノ伴奏編曲は、各歌唱曲の内容に即して成されてきた。この点は有用であるが、一人の音楽教師の成長や歌唱指導の向上という点においては、課題を持っている。音楽教育現場では、ピアノを弾きつつ子どもたちの様子を観察し、且つ共に歌唱するという三つ巴の技能が必要とされる。これは、ピアノ初級者及び中級者にとっては難しいことである。本論文では、ピアノ伴奏時におけるそのような困難点を軽減化するとともに、1学年から6学年にかけてその困難点を意図的に、また、より技能的に克服し、音楽教師自身の演奏の指導性と歌唱指導性の両面を向上させるような編曲を試みた。その上で、原曲楽譜と編曲楽譜との比較考察、子どもたちの音楽能力の育成における効果性について論じ、初等音楽科教育法のひとつの在り方を提唱する。

新小学校学習指導要領「音楽」は、平成29年3月に文部科学省より告示された新学習指導要領を基としており、平成20年3月に告示された学習指導要領と同様に、全体は3部分から構成されている。

#### 〔第1 目標〕

ここでは、教科の目標を定めている。小学校教育における音楽科が担うべき役割とその目指すところを総括して示したものである。

#### 〔第2 各学年の目標及び内容〕

「各学年の目標」は、教科の目標を実現していくための具体的な指導の目標を、児童の発達の段階に即して学年ごとに示したものである。第1学年及び第2学年（低学年）、第3年及び第4学年（中学年）、第5学年及び第6学年（高学年）のように2学年ずつまとめて示している。学年の目標は各学年とも3項目としている。

「内容」は「A 表現」「B 鑑賞」「C 共通事項」で構成されている。その「C 共通事項」の中に、本論文で取り扱う歌唱共通教材が示されている。

#### 〔第3 指導計画の作成と内容の取扱い〕

指導計画作成上の配慮事項及び、内容の取扱いと指導上の配慮事項を示している。

また、新小学校学習指導要領「音楽」の目標についての改定点について、冒頭に記述してある「表現及び鑑賞の活動を通して」の文言は、両者が一致している。その次に示された「音楽的な見方・考え方を働かせる」「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」を詳細に3項目に亘って記したことが、最も大きな改定点である。これらの項目を受けて、各学年の目標及び内容に「曲想」「音楽表現」「音楽活動」の文言が盛り込まれている。音楽を通して心を豊かに育てるという文部科学省の示す教育の視点が、具体的に表れた改定だといえる。

## II. 研究目的と意義

筆者が、小学校音楽教諭対象の研修（兵庫県小学校教育研究会音楽部会東播磨部会研修会等）での質疑応答や懇談の中、意見が多数あったのが、「歌唱共通教材」についてであった。「ピアノ伴奏が難しく弾き歌いができない、何か良い方策はないか」といった内容の質問を多く受けた。確かに原曲楽譜を正確に弾きながら児童の様子を観察し、ともに歌うことは難しいことである。学習指導要領に示されてあるように、「音楽に親しむことや豊かな情操」という目標を念頭に置いた場合、重要なことは、楽譜に与えられた音符を正確に弾くことだけでは成し得ないと考えに至った。そこで、ピアノ初級者及び中級者の音楽教師でも弾くことができるピアノ伴奏楽譜を作成することにより、歌唱表現や観察においても余裕を持ち、指導ができると考えた。

そこで先行研究として、子どもの歌の原曲ピアノ伴奏を弾き易く編曲した楽譜集「いっしょにうたおう子どもの歌」を編纂し、発刊した<sup>1)</sup>。この楽譜集には子どもの歌95曲が収められており、歌唱共通教材が3曲含まれて

いる。小学校教育現場での歌唱共通教材は必須のものであることから、本論文では、ひとつの試みとして、同じコンセプトの元に24曲のピアノ伴奏を弾き易く編曲した。

本研究の目的は、この先行研究を基として、24曲の歌唱共通教材について、編曲という音楽表現に関わるひとつの技法を用いて、歌唱共通教材のピアノ伴奏について、ピアノ初級者及び中級者でも十分に演奏できる表現の工夫を行い、学習指導要領に示された音楽目標に達することである。

### III. 研究方法

歌唱共通教材は、各学年4曲ずつ定められている。本論文では、低学年・中学年・高学年の3つに分類し、それを更に各学年の教材として示すこととする。原曲楽譜では、学年進行により音程の高低も広がり、リズムも動きを持つようになり、高度な演奏技術が必要になっている。特にピアノ初級者及び中級者にとっては難儀な伴奏形が多い。そのために、弾き易い伴奏という観点からの編曲に力点を置く。音楽教師が弾き易いと感じることができれば、同時に歌うことも容易となり、子どもたちの音楽能力向上や育成のためにも有意義な指導ができると考える。

歌唱共通教材の編曲方法については、子どもたちの音楽的能力育成の効果性に関して、熟慮しつつ行った。学年進行順により音楽活動意欲が芽生え、且つ音楽的能力が向上できるような編曲とした。低学年では歌唱や聴音に対する意欲を芽生えさせ、音楽のフレーズやダイナミクスを十分に感じ取れるようにした。また中学年では、歌詞を音楽的に表現することへ意欲を持ち、歌詞の情景描写を表現できるようにした。そして高学年では、リズムを感じる感覚を向上させ、音楽を総合的に表現できるようにした。

原曲楽譜を見てみると、伴奏形態は学年進行順に伴い難易度が高くなっている。単音や和音のみで構成されていたものにオクターヴが加わり、掛留音や分散和音が多用されるようになり、アルペッジョやトリル、装飾音符といった技術的に難易度の高いものが付されている。ピアノ初級者及び中級者では、伴奏するだけで精一杯の曲が中学年以降は連なっている。こうした高度な技術を排除し、単純な和音や単音での経過音等を使用することにより、簡易に弾くことができる編曲を試みた。そして、子どもたちの音楽的能力について、段階を追って育成できるように、学年進行順の配列を重んじた。

研究方法について、第1段階として、歌唱共通教材の原曲楽譜を収集し、伴奏を弾き易くするための編曲を行う。単に弾き易くするのみではなく、「歌い易くする伴奏の編曲」を熟考する。右手で弾く旋律をできる限り単音にして、左手の動きも極度な跳躍が無いようにする。

第2段階として、編曲楽譜を実際に演奏し、音やリズム等を調整する。執筆者のみならずピアノ初級者及び中級者等にも試弾してもらい、意見を聞きながら修正を重ねる。

第3段階として、原曲楽譜と完成した編曲楽譜との比較考察を行い、今後の課題を探る。

### IV. 歌唱共通教材のピアノ伴奏編曲による「音楽表現の工夫」

#### 1. 歌唱共通教材の意義と学年による分類

文部科学省学習指導要領 Q&A の「7. 音楽に関すること」の箇所に、(小学校) 問7-2の回答として、「歌唱共通教材を設けている意義は、我が国で親しまれてきた唱歌や童謡、わらべうた等を、子どもからお年寄りまで世代を超えて共有できるようになることにあります。また、我が国で長く歌われ親しまれてきたうたを取り扱うことは、我が国のよき音楽文化を受け継いでいく意味からも大切です。」と記載されている。

また、6学年を6分割せず、2学年をひとつのくくりとしてまとめることにおいては、同様に学習指導要領第1章総則第2-4に、「・・・各学校においては、これらの事項を地域や学校及び児童の実態に応じ、2学年間を見通して計画的に指導することとし、・・・」と明記されている。歌唱共通教材は各学年4曲ずつ、6学年で計24曲が指定されている。

以上の2点と学年進行順に伴いピアノ伴奏構成が複雑化していることから、本論文においては、各学年順に分類した。

#### 2. 「音楽表現を工夫すること」への着目

新学習指導要領 第6節 音楽 第1目標の(2)には、「音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。」と記載されている。

筆者は、ここに示された文言である「音楽表現を工夫すること」に着目した。勿論、児童が音楽を工夫し味わ

うことも大切な目標であるが、まず、音楽教師にその技能が備わることが重要である。また、第1目標の(1)及び(3)についても、同様である。

そこで、その観点から、歌唱共通教材のピアノ伴奏の編曲というピアノ表現技法を用いて、「音楽表現の工夫」を試みた。本来、音楽教師は児童の様子を観察しながらピアノを弾き、ともに楽しんで歌唱することが理想である。そのために、原曲の持つ響きを基に指導者が弾き易い伴奏にすることで、少しでも理想的な音楽指導の形に近づけることができるのではないかと考えた。

### 3. ピアノ伴奏編曲方法

編曲とは、楽曲の本来の形から演奏上の目的で行われる改編で、その場合、編曲者による創作的要素が加わることが多い<sup>2)</sup>。本論文における編曲の意味は、これと同様である。そして、以下の点を基に編曲を行った。

#### a) 原曲楽譜の用い方

『新・音楽科教育法』<sup>3)</sup>に掲載されてある楽譜を使用した。この書籍は、現行の小学校学習指導要領「音楽」の趣旨と内容を踏まえて、小学校教員養成大学における「音楽科教育法」のテキストとして編纂されたものである。また、小学校教諭の現職教育及び音楽教育に関する研究会・講習会等のテキストとして使用できるものである。そして、歌唱共通教材の24曲の原曲楽譜が掲載されていることから、本書を利用した。

#### b) 編曲方法の工夫

原曲伴奏の構成から鑑みた7つの考え方を基として、ピアノ伴奏編曲を行なった。この工夫により、子どもたちの音楽的能力育成向上に繋がると考える。

- 1) 弾き歌いをし易くするため、複雑な和音やオクターヴ、跳躍等をできる限り排除した。これにより、音楽教師の演奏することへの負担が軽減される。
- 2) しっかりと旋律音を出せるようにするため、右手はできるだけ単音にした。子どもたちも、旋律をしっかりと聴くことができる。
- 3) 前奏はできる限り原曲と同じ旋律にしたが、曲によって違うものもある。子どもたちが、旋律のイメージを掴み易い前奏とした。
- 4) 左手伴奏はできる限り同じ形態にした。理論的なことよりも、弾き易い音型や同一パターンを優先した。このことも、音楽教師の演奏負担の軽減と、子どもたちの観察を容易にするための工夫である。
- 5) 原曲が3段譜となっても、旋律が伴奏と同じ場合には2段譜で記譜した。楽譜を見易くするためである。また同様に、歌唱部分についても2声部または3声部に分かれているものは、ひとつにまとめた。
- 6) 伴奏部分の連符はできる限りまとめ、コードネームは、できるだけ簡略化したものを付記した。
- 7) 指使いはあえて記さない。音型に合った弾きやすい指使いで弾くためである。勿論、ピアノを弾く上での常識的な指使いを踏まえてのことである。

### 4. 原曲楽譜と編曲楽譜との比較

原曲楽譜と編曲楽譜を示した上で、以下の3点について述べる。

- ①編曲に関わる工夫点、及び原曲楽譜と編曲楽譜との比較
- ②編曲、伴奏、歌唱の3つの関係での配慮点
- ③音楽教師の伴奏のし易さ、及び子どもたちの音楽能力の育成における効果性

#### a) 低学年（第1学年及び第2学年）

第1学年の歌唱共通教材は、「うみ」「かたつむり」「日のまる」「ひらいたひらいた」である。低学年の指導上の課題は、表現に対する思いを持つことや、楽しく音楽と関わり、音楽活動する楽しさを感じることができるようにすることである。



小学校第1学年  
歌唱共通教材

## うみ

文部省唱歌  
柳波 作詞  
井上 武士 作曲

1. う み は ひ ろ い な み お お き い な み  
2. う み は ひ ろ お な み お お い な み  
3. う み に お ふ ね を う か ば せ

つ きれ が て の ぼ る し で ひ が し く ず  
ゆ い っ て の ど み ま い な つ っ そ の や く  
む ら に

小学校第1学年  
歌唱共通教材

うみ (編曲版)<sup>4)</sup>

文部省唱歌  
柳波 作詞  
井上 武士 作曲  
中島 龍一 編曲

1. う み は ひ ろ い な み お お き い な み  
2. う み は ひ ろ お な み お お い な み  
3. う み に お ふ ね を う か ば せ

つ きれ が て の ぼ る し で ひ が し く ず  
ゆ い っ て の ど み ま い な つ っ そ の や く  
む ら に

- ①原曲楽譜は、右手旋律で1音を保持したまま他の指を動かす形で書かれている。これは、ハーモニーを感じる上では有効な手段であるが、演奏困難な場合もある。編曲楽譜では、左手の和音でその効果を補うようにした。また、第9小節目は原曲楽譜では右手が動く中で歌唱しなければならないが、旋律のみにした。このことにより、歌唱表現がし易くなる。
- ②伴奏和音をできるだけ簡素化し、歌唱し易くする配慮を行った。
- ③伴奏和音の根音をできるだけ変更しない形を用いることにより、鍵盤移動が少なくなり、伴奏がし易くなる。また、属7の和音等、和音に変化を与えた。これは、歌唱意欲を向上させる効果がある。

小学校第1学年  
歌唱共通教材

## かたつむり

文部省唱歌

1. で ん で ん む む し む し か た つ り  
2. で ん で ん む む し む し か た つ り

お ま え の あ た ま は ど ど こ に あ る  
お ま え の め だ ま は ど ど こ に あ る

つ の だ せ や り だ せ あ た ま だ せ  
つ の だ せ や り だ せ め だ ま だ せ

小学校第1学年  
歌唱共通教材

かたつむり (編曲版)<sup>5)</sup>

文部省唱歌  
中島 龍一 編曲

1. で ん で ん む む し む し か た つ り  
2. で ん で ん む む し む し か た つ り

お ま え の あ た ま は ど ど こ に あ る  
お ま え の め だ ま は ど ど こ に あ る

つ の だ せ や り だ せ あ た ま だ せ  
つ の だ せ や り だ せ め だ ま だ せ

- ①原曲楽譜は、左手が縦横に動くように書かれている。右手の旋律も同じ音価で動きを持っているため、旋律が強調されるように弾くためには高度な技術が必要である。また、符点音符の動きに対して左手の伴奏形に気を取られてしまう場合もあり得る音型である。編曲楽譜では、左手伴奏を和音で表現し、弾き易くした。このことにより、リズムを感じながら弾き歌いができる。
- ②前奏と最後の4小節の伴奏形を同じにして、弾き歌いの困難さを軽減した。

- ③ 7小節目で伴奏和音に属音上の和音を与えた。これにより、和音の変化を感じ取ることができれば、子どもたちの聴音能力を向上させる効果がある。

小学校第1学年  
歌唱共通教材

# 日のまる

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲

♩=104

1. し  
2. あ

ろ お  
じ ぞ  
に ら  
あ か  
く か  
く

ひ の  
ひ の  
ま ま  
る る  
あ め  
げ て  
て

あ あ  
あ う  
う つ  
く つ  
し し  
い い

に に  
に ほ  
ん ん  
の の  
は は  
た た  
は は

小学校第1学年  
歌唱共通教材

# 日のまる（編曲版）

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=104

1. し  
2. あ

ろ お  
じ ぞ  
に ら  
あ か  
く か  
く

ひ の  
ひ の  
ま ま  
る る  
あ め  
げ て  
て

あ あ  
あ う  
う つ  
く つ  
し し  
い い

に に  
に ほ  
ん ん  
の の  
は は  
た た  
は は

- ① 原曲楽譜は、右手旋律が和音進行となっている。これは響きの面で効果のある書法であるが、同時に3音を鳴らすため、一番上の音を強調するためにバランスを取るのが難しい。編曲楽譜では、左手を和音で表現し、その動きがあまり生じないように転回形を使用した。このことにより、歌唱表現がし易くなる。
- ② 1ヶ所を除き、伴奏和音を2音構成での和音を用い、歌唱し易くする配慮を行った。
- ③ 旋律の響きの中で、伴奏和音をできるだけ少なくすることにより、子どもたちの歌唱する音を聴き合うことで、歌唱意欲を向上させる効果がある。

小学校第1学年  
歌唱共通教材

# ひらいたひらいた

わらべうた

♩=88~104

1. ひ  
2. つ

らい た  
ぼん だ  
ひ ら い た  
つ ぼ ん だ  
な ん の は な が  
ひ ら い た  
つ ぼ ん だ

れん げの は な が  
ひ ら い た  
ひ ら い た と  
お も っ た ら  
れん げの は な が  
つ ぼ ん だ  
つ ぼ ん だ と  
お も っ た ら

い つの まにか  
い つの まにか  
つ ー ー  
ー ー  
ぼ ら ん だ  
ら い た

小学校第1学年  
歌唱共通教材

# ひらいたひらいた（編曲版）

わらべうた  
中島 龍一 編曲

♩=88~104

1. ひ  
2. つ

らい た  
ぼん だ  
ひ ら い た  
つ ぼ ん だ  
な ん の は な が  
ひ ら い た  
つ ぼ ん だ

れん げの は な が  
ひ ら い た  
ひ ら い た と  
お も っ た ら  
れん げの は な が  
つ ぼ ん だ  
つ ぼ ん だ と  
お も っ た ら

い つの まにか  
い つの まにか  
つ ー ー  
ー ー  
ぼ ら ん だ  
ら い た

## 中島

- ①原曲楽譜は、左手がオクターヴやその分散型で書かれている。オクターヴは、手の小さい者にとっては弾き難い場合がある。編曲楽譜では、それらを単純化し、13小節目から和音に変換した。スタッカートと伸ばす和音とのコントラストを感じ取ることができる。このことにより、歌唱とともに躍動表現を味わうことができる。
- ②伴奏で単音を多用することにより、遊び歌としての歌詞への配慮を行った。
- ③単音と和音で伴奏形を表すことは、フレーズを感じる能力向上の効果がある。

第2学年の歌唱共通教材は、「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」「夕やけこやけ」である。

小学校第2学年  
歌唱共通教材

### かくれんぼ

文部省唱歌  
林 柳渡 作詞  
下総 統一 作曲

♩=112

か く れ ん ぼ す る も の  
よ っ と い で じ ゃ ん け ん ぼ ん よ あ い こ で し ょ  
も う い い かい ま あ だ だ よ  
も う い い かい ま あ だ だ よ  
も う い い かい ま あ だ だ よ  
p ~ mf

小学校第2学年  
歌唱共通教材

### かくれんぼ（編曲版）

文部省唱歌  
林 柳渡 作詞  
下総 統一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=112

か く れ ん ぼ す る も の  
よ っ と い で じ ゃ ん け ん ぼ ん よ あ い こ で し ょ  
も う い い かい ま あ だ だ よ  
も う い い かい ま あ だ だ よ  
も う い い かい ま あ だ だ よ  
よ

- ①原曲楽譜は、左手伴奏形にも符点音符が使用されている。これは躍動感を表現することでは効果が得られる書法であるが、演奏困難な場合もある。編曲楽譜では、符点音符は1箇所のみにして、両手同じ動きで表現するようにした。左手は短い音価の和音で演奏できるようにした。このことにより、歌唱は勿論、旋律を演奏する余裕ができる。
- ②旋律に動きがある分、伴奏形は単純な和音を用いた。
- ③伴奏のf音及びc音を半音上げた和音を使用した。和音に色彩的变化を与えることで、聴音能力を向上させる効果がある。

小学校第2学年  
歌唱共通教材

### 春がきた

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲

♩=120

1. は る が き た く は る が き た く ど こ に だ ん だ だ  
2. は な が き な は と は と は と は と は と は と は と  
3. と り が な く は と は と は と は と は と は と は と  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の

小学校第2学年  
歌唱共通教材

### 春がきた（編曲版）

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=120

1. は る が き た く は る が き た く ど こ に だ ん だ だ  
2. は な が き な は と は と は と は と は と は と は と  
3. と り が な く は と は と は と は と は と は と は と  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の  
や や ま ま ま に だ だ た く の の の の の の の の の の の の

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

- ①原曲楽譜は、左手の伴奏を同じ形に統一し、音楽的にも流れる表現で書かれてある。しかしこの手法は多くの場合、経過音の所で濁った響きになってしまう場合がある。編曲楽譜では、伴奏形を和音で表現し、経過音の所の左手を1音ずつ動かし、流れを持たせるようにした。このことにより、原曲と同じ流れの中で響きを感じながら歌唱できる。
- ②旋律に示されているスラーを感じ取りながら歌唱できるように、和音を必要最低限にして、経過音を用いた。
- ③10小節目においてディミニッシュコードを用いることは、ダイナミクス表現意欲を持たせる効果がある。

小学校第2学年  
歌唱共通教材

### 虫のこえ

文部省唱歌

♩=80

1. あれ まつ むし が ない て い る チン チロ チン チロ チン チロ リン  
2. キリ キリ キリ キリ こ お ろ ぎ や ガチャガチャガチャガチャ くつ むし

7. あれ すず むし も なき だ し た リン リン リン リン リン リン  
あ と か ら う ま お い お い つ い て チョンチョンチョンチョン ス イッ チョン

13. あ き の よ な が を な き と お す

17. ああ お も し ろ い む し の こ え

※前奏は17小節目から

小学校第2学年  
歌唱共通教材

### 虫のこえ（編曲版）

文部省唱歌  
中島 龍一 編曲

♩=80

1. あれ まつ むし が ない て い る チン チロ チン チロ チン チロ リン  
2. キリ キリ キリ キリ こ お ろ ぎ や ガチャガチャガチャガチャ くつ むし

7. あれ すず むし も なき だ し た リン リン リン リン リン リン  
あ と か ら う ま お い お い つ い て チョンチョンチョンチョン ス イッ チョン

13. あ き の よ な が を な き と お す

17. ああ お も し ろ い む し の こ え

※前奏は17小節目から

- ①原曲楽譜は、右手旋律にオクターヴ和音が多く入っている。オクターヴがぎりぎり届く者にとっては演奏困難な場合もある。左手伴奏形は保持音を含めて16分音符の動きもあり、高度な演奏技術が要求される伴奏である。編曲楽譜では、原曲楽譜の16分音符の部分をストックार्टで表現し、歌の後半部分を和音でゆったりと演奏できるようにした。このことにより、歌唱し易くなる。
- ②単純な伴奏形であっても、ストックार्टやスラーを使用して情景を表現し易くした。
- ③歌詞に与えられた擬音語の特性を簡単な伴奏で表現できるようにした。これは、子どもたちにとっても、歌唱表現能力向上の効果がある。



小学校第2学年  
歌唱共通教材

# タヤけこやけ

中村 雨紅 作詞  
草川 信 作曲

①原曲楽譜は、左手伴奏形のオクターヴ跳躍やオクターヴでの保持音があり、右手旋律にもオクターヴ和音の分散形と、3度の動きが多く入っている。これらを演奏しながら歌うのは、かなり高度な技術が要求される。編曲楽譜では、前奏に鐘の響きを表現した和音を入れ、左手伴奏形は和音の変化により響きを表現できるようにした。このことにより、響きを感じながら歌唱できる。

小学校第2学年  
歌唱共通教材

# タヤけこやけ (編曲版)<sup>6)</sup>

中村 雨紅 作詞  
草川 信 作曲  
中島 龍一 編曲

②旋律の上行形に対して伴奏和音も上行し、下行形に対しても同様の動きを持たせた。

③伴奏和音の変化により、子どもたちの歌唱表現への意欲向上の効果がある。

## b) 中学年 (第3学年及び第4学年)

第3学年の歌唱共通教材は、「うさぎ」「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」である。中学年の指導上の課題は、音楽表現に対する思いや意図を持つこと、進んで音楽に関わり、様々な音楽に親しむことができるようにすることである。

小学校第3学年  
歌唱共通教材

# うさぎ

日本古謡

小学校第3学年  
歌唱共通教材

# うさぎ (編曲版)

日本古謡  
中島 龍一 編曲

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

- ①原曲楽譜は、左手伴奏形にオクターヴと右手旋律とのシメントリーな動きを取り入れている。また、右手は前奏部分において装飾音符を用いている。編曲楽譜では、この装飾音符とそれに掛かる音符を同時に弾いて同じ響きを得られるようにした。左手伴奏形は和音とスタッカートにより、緩急を表現した。このことにより、弾き歌いがし易くなる。
- ②歌詞の内容を、スタッカートと2音構成和音で対照的に表現した。
- ③単純な音による伴奏の中で、言葉を音楽的に表現する力の育成への効果がある。

小学校第3学年  
歌唱共通教材

茶つみ

文部省唱歌

1. な つ も り  
2. ひ よ り

ち か づ く は ち じ ゅ う は ち や  
つ づ き き ょ う こ の ろ を

の に も や ま に も わ か ぼ が し げ る  
こ こ ろ の ま ど か に つ み づ な い か  
あ れ に み え る は ち つ ま ね ば な ら ぬ  
あ つ ま に や だ に す き に す げ の か  
あ つ ま に や だ に す き に す げ の か

*poco a poco rit. e dim.*

小学校第3学年  
歌唱共通教材

茶つみ (編曲版)

文部省唱歌  
中島 龍一 編曲

1. な つ も り ち か づ く は ち じ ゅ う は ち や  
2. ひ よ り つ づ き き ょ う こ の ろ を

の に も や ま に も わ か ぼ が し げ る  
こ こ ろ の ま ど か に つ み づ な い か  
あ れ に み え る は ち つ ま ね ば な ら ぬ  
あ つ ま に や だ に す き に す げ の か  
あ つ ま に や だ に す き に す げ の か

※前奏は13小節目から

- ①原曲楽譜は、左手伴奏が同じ音型で書かれている。それに対して右手の旋律は、途中からオクターヴの和音進行となり、保持音上での動きも出てくる。単純な形であっても、弾き歌いでの演奏は難しい。編曲楽譜では、左手伴奏は4分音符による同じ形で表現し、最後の4小節は和音を用いた。このことから、ダイナミクスを感じながら歌唱できる。
- ②同じリズムによる伴奏形と、単純な和音を用いた。
- ③スタッカートを付けることにより躍動感が得られ、情景描写表現能力向上の効果がある。

# 中島

小学校第3学年  
歌唱共通教材

## 春の小川

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲

♩=104

1. はーるの おがわは サラサラ いくよ  
2. はーるの おがわは サラサラ いくよ

5. *mf*

9. *mf*

13. *mf*

17. *mf*

小学校第3学年  
歌唱共通教材

## 春の小川 (編曲版)

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=104

1. はーるの おがわは サラサラ いくよ  
2. はーるの おがわは サラサラ いくよ

5. *mf*

9. *mf*

13. *mf*

17. *mf*

- ①原曲楽譜は、右手旋律が分散和音形で書かれている。左手伴奏は4分音符で、単純な音型で書かれている。しかし、右手の分散和音の裏拍が殆ど「ド」の音になっているため、旋律を浮かび上げるように演奏することは高度な技術を要する。編曲楽譜では、右手を旋律の音をそのままにして、左手伴奏形を和音で表現した。このことにより、単純な中にも和音の変化を味わいながら歌唱できる。
- ②原曲伴奏での弾き歌いは、かなり難易度が高い。単純な和音を用い、簡素化した。
- ③各段においてダイナミクスが要求されている。単純な和音を用いることは、ダイナミクス表現能力向上の効果がある。

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第3学年  
歌唱共通教材

### ふじ山

文部省唱歌  
巖谷 小波 作詞

Original musical score for 'Fujiyama'. It is in 4/4 time with a tempo of ♩=96. The score is written for piano and voice. The piano part features complex chords and octaves, while the voice part has lyrics in Japanese. The score is divided into systems, with measures 1-4, 5-8, 9-12, 13-16, and 17-20 shown. The piano part includes markings like *mf*, *p*, and *poco rit.*.

小学校第3学年  
歌唱共通教材

### ふじ山（編曲版）

文部省唱歌  
巖谷 小波 作詞  
中島 龍一 編曲

Arranged musical score for 'Fujiyama'. It is in 4/4 time with a tempo of ♩=96. The score is written for piano and voice. The piano part features simplified chords and octaves, while the voice part has lyrics in Japanese. The score is divided into systems, with measures 1-4, 5-8, 9-12, 13-16, and 17-20 shown. The piano part includes markings like *mf*, *p*, and *poco rit.*.

※前奏は13小節目から

- ①原曲楽譜は、右手旋律が和音とオクターヴを伴って書かれている。左手伴奏形にも、オクターヴが多用され、更に保持音もあり、演奏困難な場合もある。編曲楽譜では、右手を伸ばしている所は左手を単純な音型で動かし、右手が動いている所は左手を和音で表現した。このことにより、歌唱し易くなる。
- ②掛過音を排除し、和音中心の伴奏形を用いた。
- ③和音中心の伴奏形により、歌詞のフレーズを感じ易く歌い易くなる効果がある。

## 中島

第4学年の歌唱共通教材は、「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」である。

小学校第4学年  
歌唱共通教材

### さくらさくら

日本語

Original musical score for 'Sakura Sakura'. It is in 4/4 time with a tempo of 72. The score is written for piano and voice. The lyrics are in Japanese. The score consists of five systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment. The piano accompaniment features arpeggiated chords in the right hand and sustained chords in the left hand.

小学校第4学年  
歌唱共通教材

### さくらさくら（編曲版）

日本語  
中島 龍一 編曲

Arranged musical score for 'Sakura Sakura'. It is in 4/4 time with a tempo of 72. The score is written for piano and voice. The lyrics are in Japanese. The score consists of five systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment. The piano accompaniment features arpeggiated chords in the right hand and sustained chords in the left hand. The arrangement includes chord symbols (Am, Em, F) above the vocal line.

- ①原曲楽譜は、両手によるアルペッジョを多用し、右手は歌唱音程よりも1オクターヴ上の音で書かれている。これは、ピアノ用楽曲としては優れた構成であると考えられる。しかし、弾き歌いでは困難な場合もある。編曲楽譜では、右手旋律を歌唱音程と同じ高さに単音で整え、左手伴奏形は動きのある旋律に対して和音を使用し、弾き易くした。このことにより、響きを十分に感じながら歌唱表現ができる。
- ②伴奏を弾くだけでも高い難易度である。技術的に難しい要素を全て排除し、単純な和音を用いた。
- ③日本音階の持つ響きを歌の持つ響きと融合させることにより、歌唱表現能力向上の効果がある。



## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第4学年  
歌唱共通教材

### とんび

葛原 しげる 作詞  
梁田 貞 作曲

1. と べ と - べ とん び そ ら た - か - く  
2. と ぶ と - ぶ とん び そ ら た - か - く

な け な - け - とん び あ お ぞ - ら - に  
く な - く - とん び あ お ぞ - ら - に

1. 2. ビン ヨ ロ ビン ヨ ロ ビン ヨ ロ ビン ヨ ロ

た の し - げ - に わ を か - い - て

小学校第4学年  
歌唱共通教材

### とんび (編曲版)

葛原 しげる 作詞  
梁田 貞 作曲  
中島 龍一 編曲

1. と べ と - べ とん び そ ら た - か - く  
2. と ぶ と - ぶ とん び そ ら た - か - く

な け な - け - とん び あ お ぞ - ら - に  
く な - く - とん び あ お ぞ - ら - に

1. 2. ビン ヨ ロ ビン ヨ ロ ビン ヨ ロ ビン ヨ ロ

た の し - げ - に わ を か - い - て

- ①原曲楽譜は、両手で分散和音形を弾き、後半はトリルを奏しながら歌うという、極めて難易度の高い技術が要求される。また、鍵盤で扱う音域も幅広い。編曲楽譜では、右手旋律に動きがあるため、左手は単純な音型の和音でまとめ、旋律の動きが止まる時には左手に動きを与えた。このことにより、弾く際のダイナミクスの表現と歌唱がし易くなる。
- ②伴奏の両手の激しい動きを和音による一括処理を施し、単純化した。
- ③擬音語や情景描写の歌詞に対しての伴奏を簡略化することにより、言葉による音楽的表現能力向上の効果があ

中島

## まきばの朝

文部省唱歌  
船橋 榮吉 作曲

[illegible]

## まきばの朝（編曲版）

文部省唱歌  
榮吉 作曲  
龍一 編曲

[illegible]

※前奏は17小節目から

- ①原曲楽譜は、分散和音形やオクターヴ、保持音に至るまで、様々な要素が取り入れられている。編曲楽譜では、原曲にある前奏の半分の長さにした。また躍動感原曲に劣るものの、左手伴奏形を和音にした。この曲は、主要3和音で弾くことができる構成となっている。このことにより、歌唱表現がし易くなる。
- ②原曲の分散和音を単純化した和音で表した。
- ③和音による伴奏形のため、歌詞が聞き取り易くなる。このことにより、歌唱表現能力向上の効果がある。

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第4学年  
歌唱共通教材

### もみじ

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲

♩=92 *mp*

1.あ きの ゆ う ひ れ に て る や ま も み ー じ  
2.た に の な が れ に ち り う く も み ー じ

こ な い も う す ら い れ も て か は ず あ る て な か に て  
な め に ゆ ら い て は な れ て よ っ て

ま つ を い ろ ど る の か い ー で や ー つ た は  
あ か や き い ろ の い ろ ー き ま ー ぎ ま に

や ま の ふ も と に の も す お ー も よ し う き  
み ず の う え に の も お る ー に し き

小学校第4学年  
歌唱共通教材

### もみじ (編曲版)

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=92 *mp* F C Dm C7 F C C7

1.あ きの ゆ う ひ れ に て る や ま も み ー じ  
2.た に の な が れ に ち り う く も み ー じ

こ な い も う す ら い れ も て か は ず あ る て な か に て  
な め に ゆ ら い て は な れ て よ っ て

ま つ を い ろ ど る の か い ー で や ー つ た は  
あ か や き い ろ の い ろ ー き ま ー ぎ ま に

や ま の ふ も と に の も す お ー も よ し う き  
み ず の う え に の も お る ー に し き

※前奏は13小節目から

- ①原曲楽譜は、和声学の4声体をイメージさせる形で書かれている。4つの音を同時に鳴らしながら旋律を引き立たせるように弾くことは、困難な場合もある。編曲楽譜では、各段共にできるだけ同じ音形になるようにした。左手の和音は単純なものを使い、美しい旋律の邪魔にならないようにした。このことにより、歌唱表現がし易くなる。
- ②原曲にある掛留音と経過音を排除し、和音による伴奏形を用いた。
- ③歌詞のフレーズを感じる事が十分にでき、且つ弾き易い伴奏である。子どもたちの歌唱表現能力向上の効果がある。

## c) 高学年（第5学年及び第6学年）

第5学年の歌唱共通教材は、「こいのぼり」「子もり歌」「スキーの歌」「冬げしき」である。高学年の指導上の課題は、主体的に音楽に関わり、曲や演奏の楽しさを見出しながら音楽を味わうことができるようにすること、曲想や音楽の構造、歌詞の内容を理解できるようにすることである。

小学校第5学年  
歌唱共通教材

こいのぼり

文部省唱歌

小学校第5学年  
歌唱共通教材

こいのぼり（編曲版）

文部省唱歌  
中島 龍一 編曲

※前奏は13小節目から

- ①原曲楽譜は、右手旋律をそのままなぞっているが、歌詞を伸ばす所では符点音符の連続で書かれている。また最後の段では、旋律と符点の動きが混合する形をとっている。伴奏の跳躍と共に歌唱することは演奏困難な場合もある。編曲楽譜では、原曲楽譜左手と同じ形を多く用い、和音で演奏できるようにした。このことにより躍動感を表現し易く、また歌唱し易くなる。
- ②原曲の伴奏形の持つリズムはそのまま残し、単純化された和音を用いた。
- ③増音程による和音を使用して変化を与え、且つ移動の少ない和音で弾き易くした。躍動感を伴った歌唱リズム感覚能力向上の効果がある。

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第5学年  
歌唱共通教材

### 子もり歌

日本古謡

Original musical score for 'Kumori Uta'. It features a piano accompaniment with a wide range of chords, including many octaves and complex voicings. The melody is in a traditional Japanese scale. The lyrics are in Japanese, with three verses provided.

Lyrics (Verse 1):  
1.ねん ね ん こ ろ り よ お こ ろ り よ た  
2.ぼう や と の お め り ほ に と な へ も い つ ら た  
3.き と の み や げ に な に も ら た

小学校第5学年  
歌唱共通教材

### 子もり歌（編曲版）

日本古謡  
中島 龍一 編曲

Arranged musical score for 'Kumori Uta'. The piano accompaniment is simplified, using only basic chords (Asus4, Em, Am, Esus4) and avoiding complex voicings and octaves. The melody remains the same. The lyrics are in Japanese, with three verses provided.

Lyrics (Verse 1):  
1.ねん ね ん こ ろ り よ お こ ろ り よ た  
2.ぼう や と の お め り ほ に と な へ も い つ ら た  
3.き と の み や げ に な に も ら た

- ①原曲楽譜は、両手共にアルペジジョとオクターヴの和音で構成されている。また、音域も非常に幅広い。編曲楽譜では、日本音階の主要な3つの音を同時に鳴らし、その響きを表現した。このことにより、歌唱がし易くなり、響きから得られる情景が十分に得られる。
- ②原曲にある高度な技術を要する箇所を単純化し、日本音階で構成される2種類の和音のみで弾けるようにした。
- ③歌詞に込められた思いを十分に表現する音楽的能力育成の効果がある。



中島

## スキーの歌（編曲版）

林柳文  
橋本波  
中島國彦  
龍一

♩ = 120

G D7 G

1.かが やー の かー げー は やー るー の やー まちん  
2.とぶ おお ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
3.やま ー ー ー ー ー ー ー ー ー

5 G A D

かぶ やー の かー げー は やー るー の やー ふ  
おぶ おお ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
やま ー ー ー ー ー ー ー ー ー

9 D G D7 G

も とく を め が て ス ター ト き れー ー ぼ  
ばち まち ぎ え ー ー ー てん ー ー ー を ー ー め  
ま ー ー ー な ー ー ー たに ー ー ー を ー ー ー がー ー け

13 G D7

お やー は ま い たー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
こ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
とど ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

16 G C G D7 G

ぶる ー ー ー は は ー ー ー さかこ ー ー ー  
ちる ー ー ー は は ー ー ー け け ー ー ー  
ちる ー ー ー は は ー ー ー こ こ ー ー ー

- ①原曲楽譜は、左手伴奏形が保持音の裏拍で一定のリズムを打つことにより、流れるような感じを表現できるように書かれている。それを感じながら旋律を弾くことは高度な技術が必要され、演奏困難な場合もある。編曲楽譜では、原曲にある裏拍打ちを倍の音価である4分音符に設定し、リズムを感じ易いようにした。このことにより、弾き歌いし易くなる。
- ②伴奏形は、簡単な和音と同一リズムで表現できるようにした。
- ③歌詞の流れを感じる力を養い、和音の変化を感じ取ることから得られる音楽的表現能力育成の効果がある。

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第5学年  
歌唱共通教材

### 冬げしき

文部省唱歌

♩=100

1. 3 り き ゆ る み な と え の  
2. か ら す な き て き に た か く

5 9 13 17

ふ ね と は し ろ し あ ゐ さ の し む  
た だ に こ は る び の こ の え ど け し て や  
い ま だ り さ め ず き は し の い え

1. 2.

1. 2.

小学校第5学年  
歌唱共通教材

### 冬げしき（編曲版）

文部省唱歌  
中島 龍一 編曲

♩=100

F B♭ B♭m C7 F

5 9 13 17

1. 3 り き ゆ る み な と え の  
2. か ら す な き て き に た か く

ふ ね と は し ろ し あ ゐ さ の し む  
た だ に こ は る び の こ の え ど け し て や  
い ま だ り さ め ず き は し の い え

- ①原曲楽譜は、3部合唱ができるように書かれている。伴奏も3声体を多用し、各パートに割り当てられた音を取り易いように配慮された形となっている。編曲楽譜では、経過音の箇所以外は、各小節をできるだけ一つの和音で表現できるようにした。このことから、ピアノで旋律の流れを感じながら弾き、歌唱できる。
- ②原曲にある掛留音や旋律に付随する和音を排除し、単純化した和音で表現した。
- ③和音の数をできるだけ少なくした。このことから、歌詞の情景描写表現能力向上の効果がある。

## 中島

第6学年の歌唱共通教材は、「越天楽今様」「おぼろ月夜」「ふるさと」「われは海の子」である。

小学校第6学年  
歌唱共通教材

### 越天楽今様

慈嶺 和尚 作歌  
日本古謡

小学校第6学年  
歌唱共通教材

### 越天楽今様（編曲版）

慈嶺 和尚 作歌  
中島 龍一 編曲

- ①原曲楽譜は、右手は保持音の中で音が8分音符で動き、左手伴奏形は、オクターヴでの和音が多用されている。編曲楽譜では、歌唱部分の和音を2種類に絞り、原曲にある響きをそのまま表現できるようにした。このことにより、弾き歌いがし易くなる。
- ②原曲にある掛留音や複雑な動きを排除し、雅楽の持つ音の響きを和音で表現した。
- ③2種類の和音で伴奏できるようにした。日本語の美しさを音楽的に表現する能力を育成する効果がある。

## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第6学年  
歌唱共通教材

### おぼろ月夜

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲

♩=80

1. な の  
2. さ と

は な ば た け - に い り ひ う す れ み わ  
わ の ほ か げ - も の の い ろ も た な

た す や ま の - は か す み ふ か し は る  
か の こ み ち - を た ど る ひ と も か わ

か - ぜ そ よ ふ - く そ - ら を み れ ば ゆ う  
ず - の な く ね - も か - ね の お と も き な

づ き か か り - て に お ぼ い あ わ し  
が ら か す め - る お ぼ ろ づ き し

小学校第6学年  
歌唱共通教材

### おぼろ月夜（編曲版）

文部省唱歌  
高野 辰之 作詞  
岡野 貞一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=80

1. な の  
2. さ と

は な ば た け - に い り ひ う す れ み わ  
わ の ほ か げ - も の の い ろ も た な

た す や ま の - は か す み ふ か し は る  
か の こ み ち - を た ど る ひ と も か わ

か - ぜ そ よ ふ - く そ - ら を み れ ば ゆ う  
ず - の な く ね - も か - ね の お と も き な

づ き か か り - て に お ぼ い あ わ し  
が ら か す め - る お ぼ ろ づ き し

- ①原曲楽譜は、2部合唱の形で書かれている。伴奏は、4声体の書法と6度での奏法が特徴的である。伴奏の演奏のみにあっても、高度な技術が必要である。編曲楽譜では、左手伴奏形をできる限り和音にした。旋律が伸びている間は、左手を動かしてリズムを取り易いようにした。このことにより、歌唱のダイナミクスが表現し易くなる。
- ②原曲にある掛留音と跳躍を排除し、単純化した和音で表現した。
- ③移動の少ない和音を使用することにより、伴奏への負担を軽減した。また、和音によるリズムも統一感を持たせた。このことは、詳細に指示のあるダイナミクスを表現する能力向上の効果がある。

小学校第6学年  
歌唱共通教材

# ふるさと

文部省唱歌  
高野 貞一 作詞  
岡野 貞一 作曲

♩=80 *mf*

1.う さ か ぎ お い い か の や ま は て  
2.い さ か こ り ゐ し す を は た し  
3.こ こ り ゐ し す を は た し

こ つ な が つ な り し か と か も え が ら わ き ん  
こ つ な が つ な り し か と か も え が ら わ き ん  
こ つ な が つ な り し か と か も え が ら わ き ん

ゆ め は い か ま ぜ も に き め ぐ け り て も と  
あ ま は い か ま ぜ も に き め ぐ け り て も と  
あ ま は い か ま ぜ も に き め ぐ け り て も と

わ お す れ が た き ふ る さ きの と  
お め す れ が た き ふ る さ きの と  
お め す れ が た き ふ る さ きの と

小学校第6学年  
歌唱共通教材

# ふるさと（編曲版）

文部省唱歌  
高野 貞一 作詞  
岡野 貞一 作曲  
中島 龍一 編曲

♩=80 *mf*

1.う さ か ぎ お い い か の や ま は て  
2.い さ か こ り ゐ し す を は た し  
3.こ こ り ゐ し す を は た し

こ つ な が つ な り し か と か も え が ら わ き ん  
こ つ な が つ な り し か と か も え が ら わ き ん  
こ つ な が つ な り し か と か も え が ら わ き ん

ゆ め は い か ま ぜ も に き め ぐ け り て も と  
あ ま は い か ま ぜ も に き め ぐ け り て も と  
あ ま は い か ま ぜ も に き め ぐ け り て も と

わ お す れ が た き ふ る さ きの と  
お め す れ が た き ふ る さ きの と  
お め す れ が た き ふ る さ きの と

- ①原曲楽譜は、3部合唱の形で書かれている。伴奏は右手旋律が分散和音の形となっており、しかも上の音が保持音となっている。また、オクターヴでの和音もあり、後半は左手も動きを伴ってくる。編曲楽譜では、左手伴奏形を和音で表現し、特に2段目は旋律の下行形に従って左手の和音も下行するようにした。このことから、歌唱がし易くなる。
- ②複雑な右手の伴奏形を排除し、3音構成による和音で表現した。
- ③3音構成の和音であるが、できる限り移動が少ない和音を選定したことにより、弾く側の負担を軽減した。このことにより子どもたちの歌唱時にダイナミクスを感じ易くなり、歌詞の音楽的表現力向上の効果がある。



## 初等音楽科教育法における音楽表現の工夫

小学校第6学年  
歌唱共通教材

### われは海の子

文部省唱歌

① 原曲楽譜は、前半は旋律と単純な伴奏形で書かれているが、後半は伴奏形が旋律を離れてコード奏法となり、最後の段は右手が和音で旋律を動かしていく書法が用いられている。編曲楽譜では、前半は旋律と同じ音型を伴奏で用いた。後半は、左手伴奏形に和音を用いた。このことから、旋律の流れやダイナミクス表現を感じながら歌唱がし易くなる。

小学校第6学年  
歌唱共通教材

### われは海の子（編曲版）

文部省唱歌  
中島 龍一 編曲

② 旋律の持つリズムを伴奏形にも用いて、且つ3音構成による和音で表現した。

③ 同じ形のリズムを多用し、且つ移動の少ない和音を用いることにより、弾き易くした。ダイナミクス表現能力と歌詞の表現能力向上の効果、つまり総合的な音楽表現力向上の効果がある。

## V. 総括と今後の課題

総括として、歌唱共通教材24曲の原曲及び編曲における相互の関係表（表1）を示す。

まず、歌唱共通教材の原曲のピアノ伴奏の構成を示し、その演奏の難易度を4段階に分けた。学年進行順に伴って、伴奏形態が複雑化しているのが明確である。従って、音楽教師側の演奏技術も学年を追うごとに高度なものが要求される。それらを払拭するために、単音と和音を使用した伴奏の編曲を行い、24曲が最低難易度で演奏できるように工夫した。このことにより、音楽教師は子どもたちを観察しながら演奏することが容易になり、子どもたちの音楽的能力を引き出し、育成していくことができると考える。各曲における音楽的能力育成の効果性は、表に示した通りである。子どもたちが音楽を味わい、音楽活動の楽しさを体験するために、先ずは教師側で担保、保証することが必要である。

原曲よりも弾き易くなることは、歌唱指導を行うにあたって非常に重要な点である。しかし、単に簡易化されるだけでは演奏効果としては希薄なものになってしまう。そこで、原曲の響きが十分に得られる和音を使用した。またペダルを使用することも、演奏効果として有効な手段である。編曲は、その曲をより華やかにするためのものや、音楽ジャンルを変更するもの、より複雑化することにより聴き手にその奥深さを考えさせるものが多い。しかし、本研究における編曲は、演奏目的のためではなく、初等音楽科教育のためのものである。そこが従来の演

表1 歌唱共通教材24曲の原曲及び編曲における相互関係表 ※各学年の曲配列は50音順による  
 難易度 A：初級（バイエル程度）B：中級（ブルグミュラー程度）C：上級（ソナチネ程度）D：最上級（ソナタ以上）  
 「跳躍」はオクターヴ以上の場合

学年	教材名	原曲伴奏の構成（旋律を含む）	音楽教師演奏難易度	編曲の工夫	音楽教師演奏難易度	音楽的能力育成の効果性
1	うみ	単音＋和音＋分散和音＋掛留音	B	和音	A	歌唱意欲向上
1	かたつむり	分散和音	B	和音	A	聴音能力向上
1	日のまる	単音＋和音	B	和音	A	歌唱意欲向上
1	ひらいたひらいた	和音＋分散和音＋オクターヴ	B	単音＋和音	A	フレーズ受動感覚能力向上
2	かくれんぼ	単音＋和音＋オクターヴ	B	和音	A	聴音能力向上
2	春がきた	和音＋分散和音＋跳躍	B	単音＋和音	A	ダイナミクス表現能力向上
2	虫のこえ	和音＋分散和音＋オクターヴ	C	和音	A	歌唱表現能力向上
2	夕やけこやけ	単音＋和音＋掛留音＋跳躍	C	和音	A	歌唱表現能力向上
3	うさぎ	和音＋オクターヴ	B	単音＋和音	A	音楽的言語表現能力向上
3	茶つみ	単音＋同リズム形＋オクターヴ	C	単音＋和音	A	情景描写表現能力向上
3	春の小川	単音＋分散和音	C	単音＋和音	A	ダイナミクス表現能力向上
3	ふじ山	単音＋和音＋オクターヴ＋掛留音	C	単音＋和音	A	フレーズ受動感覚能力向上
4	さくらさくら	和音＋オクターヴ＋アルペッジョ	C	和音	A	歌唱表現能力向上
4	とんぴ	分散形＋オクターヴ＋トリル	D	単音＋和音	A	音楽的言語表現能力向上
4	まきばの朝	和音＋分散和音＋掛留音＋跳躍	D	単音＋和音	A	歌唱表現能力向上
4	もみじ	単音＋和音＋オクターヴ＋掛留音	C	単音＋和音	A	歌唱表現能力向上
5	こいのぼり	単音＋和音＋跳躍	C	単音＋和音	A	リズム感覚能力向上
5	子もり歌	和音＋オクターヴ＋掛留音	D	和音	A	歌唱表現能力向上
5	スキーの歌	旋律和音＋オクターヴ＋掛留音	D	和音	A	音楽的表現能力向上
5	冬げしき	単音＋分散和音＋掛留音	C	単音＋和音	A	情景描写表現能力向上
6	越天楽今様	和音＋オクターヴ＋掛留音	D	単音＋和音	A	音楽的言語表現能力向上
6	おぼろ月夜	和音＋オクターヴ＋掛留音	D	単音＋和音	A	ダイナミクス表現能力向上
6	ふるさと	単音＋オクターヴ＋掛留音	D	単音＋和音	A	音楽的言語表現能力向上
6	われは海の子	単音＋和音＋オクターヴ＋掛留音	C	単音＋和音	A	総合的音楽表現能力向上

奏目的としてなされる編曲と根本的に違う点である。歌唱共通教材を、如何に子どもたちの音楽的能力の育成に有効的に使用するかという観点からのものである。

歌唱は人間の本能的な音楽表現であり、多くの人が最も長くかかわる音楽行動である。小学校での歌唱指導は、児童が生涯にわたり音楽と肯定的、かつ積極的にかかわるための土台作りという重要な役割を担っているといえる。歌唱は言うまでもなく、歌詞というメッセージを旋律に乗せて伝えるコミュニケーションである。言葉だけで伝えるよりも、旋律が付くことで、言葉の意味がより豊かに、より強調されて伝わるのがわかる<sup>7)</sup>。このことから、ピアノ伴奏に気を取られてしまい歌唱がおぼつかなくなることは、学習指導要領に記載されてある音楽目標には程遠くなってしまう。それを解決するために、「表現の工夫」としての一例である編曲は非常に有効だと考える。

学習指導要領の音楽目標は、音楽を総合的且つ多角的に捉え、豊かな心を育むことを掲げている。従来は原曲楽譜を用いて歌唱指導を行っていた場合も、本論文においてピアノ伴奏の編曲を試みたことで、ピアノ伴奏及び歌唱表現のしやすさに関しては、解決への糸口となったと確信する。このことにより、ピアノ初学者でも臆することなく音楽表現指導を行うことができ、学習指導要領にも明記されている「音楽を味わうこと」「音楽活動の楽しさを体験すること」が実行できるといえる。

しかし、これは目標達成のための始発点に過ぎない。今後の課題としては、上記の表における実践と検証をしていかなければならない。音楽教師側の観点から、各曲の弾き易さや改良点を調査することが必要である。これはピアノ初心者及び中級者の音楽教師への支援でもあり、演奏力、指導力の向上にもなる。それが子どもたちの音楽的能力の育成に繋がるといえる。

また、子どもたちについては、これらの伴奏を聴きながら歌うことによって上記の表に示された効果が得られるかどうかを検証することが必要である。これらを実証することにより、子どもたちの感性を豊かに育んでいく音楽教育ができると考える。

## 引用文献

- 1) 中島龍一：いっしょにうたおう子どもの歌，共同音楽出版社，2015
- 2) 新音楽辞典 楽語，音楽之友社，1980，p. 529
- 3) 島澤郎他：小学校教員養成課程用 新・音楽科教育法，朝日出版社，2015，p. 194-231
- 4) 中島龍一：いっしょにうたおう子どもの歌，共同音楽出版社，2015，p. 22
- 5) 中島龍一：いっしょにうたおう子どもの歌，共同音楽出版社，2015，p. 49
- 6) 中島龍一：いっしょにうたおう子どもの歌，共同音楽出版社，2015，p. 163
- 7) 有本真紀・阪井恵・山下薫子：教員養成課程 小学校音楽科教育法，教育芸術社，2013，p. 12

---

### 〈連絡先〉

著者名：中島龍一

住 所：東京都世田谷区深沢 7-1-1

所 属：日本体育大学芸術学群音楽研究室

E-mail アドレス：ryu.nakajima@nittai.ac.jp